

令和元年9月17日(火)
愛知県公立大学法人 愛知県立大学
担当：戦略企画・広報室 坂井
電話：0561-76-8636

ウズベキスタン共和国でのユネスコ代表団共催による国際会議において 愛知県立大学学長始め3名の教員が研究発表を行いました

この度、ウズベキスタン共和国政府及び同国ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）常任代表団等の共催による国際会議「有形・無形文化遺産の保存：現在の問題とその解決戦略」に、本学の学長久富木原 玲（くふきはられい）を始め教員3名及び愛知県立芸術大学の教員1名が招聘され、分科会において日本の文化・歴史に関わる各専門分野の研究発表を行いました。発表後、中央アジア地域と日本文化のつながりなどについて、様々な意見交換がなされました。

なお、本会議には、ユネスコ事務局長を始め、アジア・アメリカ・ヨーロッパなど世界77カ国から研究者・国家機関の専門家・企業関係者等が参加し、研究者等49名による発表が行われました。

学長及び教員への取材調整、写真の提供などの対応も致しますので、是非、貴社にてお取上げいただきますとともに、ご取材くださいますようお願い申し上げます。

<国際会議概要>

- 1 日程 令和元年8月26日(月)、27日(火)
- 2 会場 PALACE OF FORUMS（ウズベキスタン共和国サマルカンド市内）
- 3 主催 ウズベキスタン共和国文化省、同外務省、同ユネスコ常任代表団、同科学アカデミー 等
- 4 テーマ 「有形・無形文化遺産の保存：現在の問題とその解決戦略 (Preservation of tangible and intangible cultural heritage: topical issues and strategies to resolve them)」
- 5 本学参加（招聘）教員
愛知県立大学学長 久富木原 玲
同 日本文化学部教授 上川 通夫（かみかわみちお）
同 丸山 裕美子（まるやまゆみこ）



6 会議参加者

ユネスコ事務局長、国際記念物遺跡会議（ICOMOS）専門家、各国大学研究者、企業関係者等（発表者49名、日本からの参加団体：愛知県立大学、愛知県立芸術大学、東京藝術大学、富士通株式会社）

<発表内容要旨>

発表者・タイトル	内容要旨
学長 久富木原 玲 『国宝源氏物語絵巻』の 描写の魅力 —復元模写を 参考に—	<ul style="list-style-type: none"> ・1000年前に日本で創作された『源氏物語』は、その後、多くの絵が描かれた。中でも「国宝源氏物語絵巻」は、最古のまた最高の作品で、独特の描き方がなされている。しかし長い年月を経て、本来の色や線などが変色したり、消えたりしている。そのため10年ほど前に科学的な分析によって、「復元模写」が描かれ、本来の繊細な表現がよみがえった。本発表は、「復元模写」を手がかりに、「国宝源氏物語絵巻」の描写の特色を紹介する。
教養教育センター長／ 日本文化学部 歴史文化学科 教授 上川 通夫 「歴史の復元と文化の創造 —ウズベキスタンと日本の つながり—」	<ul style="list-style-type: none"> ・ウズベキスタンと日本の歴史について、古代や中世に遡る関連を探る。いわば「歴史の復元」である。特に仏教を素材にすると、意外な史実が浮かび上がる。間接的な連動が主だが、そこには、国境、民族、宗教を越えた普遍的価値（不殺生・慈悲など）への注目が確認される。史実復元を歴史認識に橋渡しすることは、今後の文化創造に役立つはずである。
日本文化学部 歴史文化学科 教授 丸山 裕美子 「正倉院宝物と法隆寺献納 宝物 —1300年まもられた 日本の文化遺産—」	<ul style="list-style-type: none"> ・法隆寺献納宝物の香木は、7～8世紀、原産地の東南アジアからソグド商人の手を経て、日本に伝来した。献納宝物は、法隆寺が宝物を一括して皇室に献上したため、散逸を免れた。正倉院宝物は「勅封」によって守られた。両宝物は法隆寺・東大寺の努力と皇室の権威によって守られてきたといえる。2019年秋には奈良と東京で同時に両宝物が展示される。昨年文化庁に「文化資源活用課」ができたことを受け、逆に正倉院事務所側から宝物を公開して、宝物に関する理解と保存・修復の充実を図ろうしていることを紹介する。

<招聘の経緯>

本年7月、ウズベキスタン共和国で開催された「第3回日本ウズベキスタン学長会議」に参加した際、同国文化省副大臣を表敬訪問し、本学における研究内容について報告したところ、この度の国際会議にて研究発表を行ってほしい旨の依頼があり、関係教員の招聘に至った。